

がんセンター

Kyoto University Cancer Center

- 外来がん診療部
- 入院がん診療部
- がん診療支援部
- がん教育研修部
- がん医療開発部

がんセンター長
千葉 勉



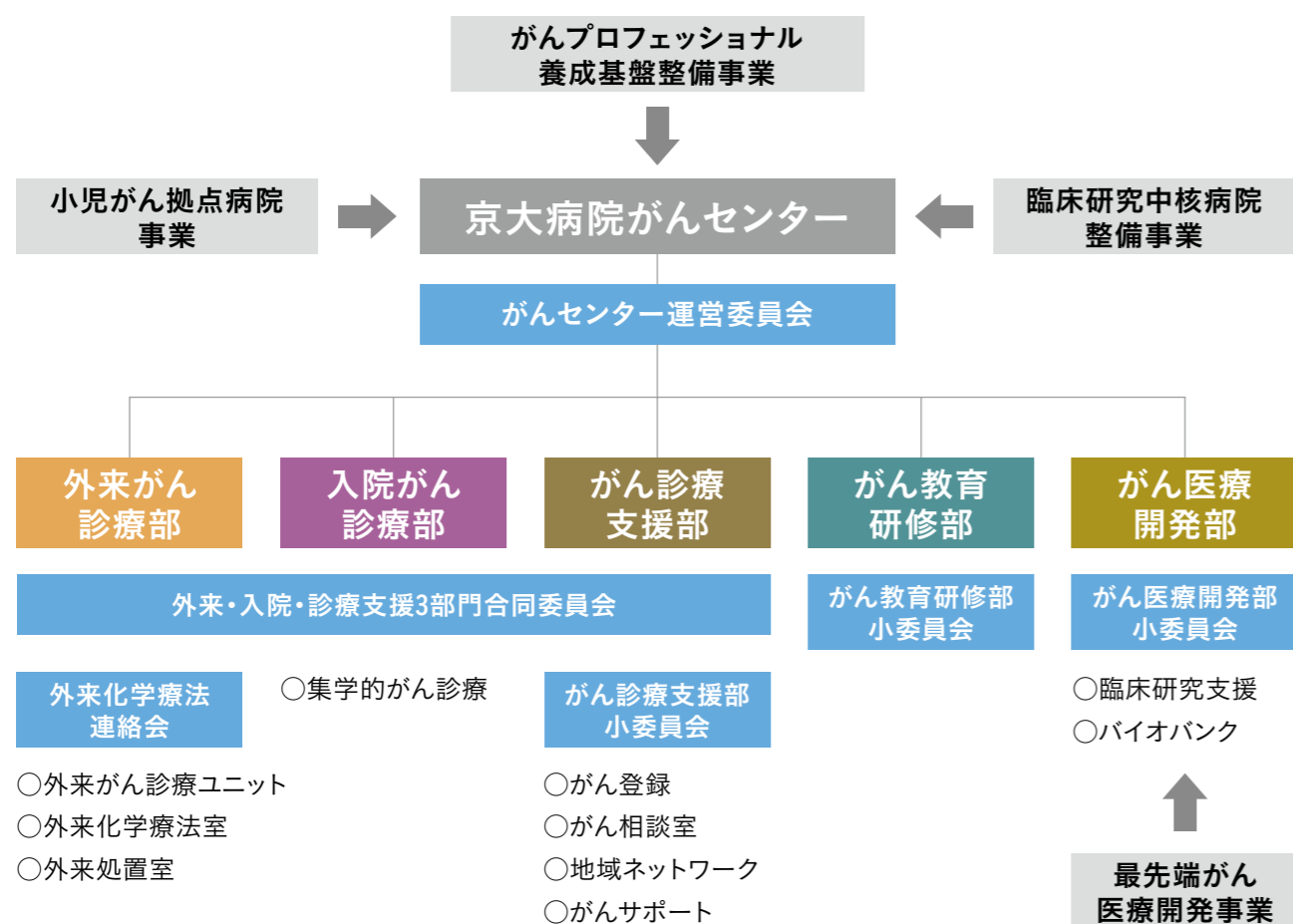
叡智を結集してがんの克服に臨む

京大病院がんセンターは国立大学病院初の「大学がんセンター」で、「外来がん診療部」「入院がん診療部」「がん診療支援部」「がん教育研修部」「がん医療開発部」の5部門で構成されている。各部門には複数の診療科・部が参画し、横断的な集学的がん診療を行っている。特徴としては下記の4点が挙げられる。

- ①臓器別「がん診療ユニット」で複数科の専門医が一堂に患者さんを診療し、迅速かつ的確に診断・治療方針を決定
- ②併存疾患や治療による副作用に対し、すべての科による対応が可能
- ③トップレベルの研究成果を活用した、新規医療開発が可能
- ④卒前・卒後の一貫教育を通じて、数多くのがん専門医、専門職を養成、等

がんセンター体制

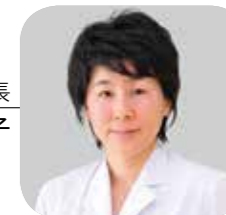
(2013.4.時点)



外来がん診療部

Division of Outpatients Ward for Multidisciplinary Cancer Treatment

外来がん診療部長
林 晶子



集学的がん診療ユニットにより 一人ひとりの患者さんを診療

外来がん診療部は、積貞棟1階と外来診療棟1階で運営され、さまざまながん種に対する集学的がん診療ユニット(カンサーボード)から構成される。

集学的がん診療ユニットでは、内科・外科系医師、放射線治療医、化学療法専門医、病理医や緩和医療医、さらには看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなども加わった横断的な多職種カンファレンスが開催され、そこで検討された治療方針をもとに、一人ひとりの患者さんに集学的な診療を行っている。現在、前立腺がん、脳腫瘍・小児脳腫瘍、肺がん・中皮腫、食道がん、乳がん、膵がん、大腸がん、胃がん・GIST、頭頸部がん、小児がん、原発不明がん・希少がんの各ユニットが運営されている。

入院がん診療部

Division of In-patients Ward for Multidisciplinary Cancer Treatment

入院がん診療部長
武藤 学



個室を多く配置した 集学的がん治療専門病棟

入院がん診療部は、積貞棟2階において総病床数36床(総室16床、個室20床)で運営している。特徴としては、抗がん薬治療や放射線治療による「集学的がん治療専門病棟」であること。そのため患者さんのプライバシーを確保すべく、個室を多く配置している。

また、外来がん診療部門の看護師・薬剤師とも密に連携し、外来から入院まで一貫して専門性の高いがん診療を提供しており、抗がん薬治療や放射線治療の副作用出現時にも迅速な対応が可能である。さらに、未来のがん医療の発展のため、臨床試験や治験を専門に扱う病棟としての機能も備えている。

がん診療支援部

Division of Supportive Care for Cancer Treatment

がん診療支援部長
横出 正之



患者さんや家族のさまざまな苦痛を 和らげるために

がん診療支援部は、外来ならびに入院がん診療部と協力して、がん患者が安心して医療を受けられるよう支援することを目的とし、がんサポートチーム(緩和ケアチーム)と、がん相談支援室で構成されている。

がんサポートチームは医師、看護師、薬剤師などの多職種からなる医療チームで、病気や治療に伴って生じる痛みなどの身体的苦痛、不安や気分の落ち込みなどの精神的苦痛など、がん患者やその家族が直面するさまざまな苦痛を和らげることを目標に活動している。がん相談支援室は、積貞棟1階にて、がん医療を理解するための勉強会の開催、資料の提供、患者会の開催などを行っている。また、がん医療の相談窓口として院内外より相談を受けている。